院内感染対策に関する取組み

1. 院内感染対策に関する基本的な考え方

当院の院内感染対策は、患者様やご家族、面会者そして職員のすべての人に対して、標準予防策を基本とした感染対策を遵守します。必要に応じて、感染経路に応じた予防策を行います。

2. 院内感染対策組織に関する事項

当院の感染対策の最高決定機関に院内感染対策委員会を設置し、月 1 回の会議を開催します。さらに、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成した感染対策チームおよび抗菌薬適正使用支援チームを設置し、ラウンドや抗菌薬の適正使用を行い、感染対策や薬剤耐性対策、感染症診療の充実を図ります。

3. 院内感染対策教育に関する事項

全職員を対象に感染対策研修会を年 2 回以上開催し、知識・技術の向上に努めます。
新規採用職員を対象に感染対策教育を行います。

4. 感染症発生状況の報告に関する事項

耐性菌や院内感染対策上問題となる微生物を検出した場合、感染対策チームから各部署に報告が入り、感染対策の遵守状況を確認します。細菌の検出状況の感染レポートを作成（感染管理支援ソフトで毎日の検出状況を確認）し、職員全体で情報共有します。

5. 院内感染発生時の対応に関する事項

感染症患者（疑いを含む）が発生した場合は、感染対策チームが速やかに現状を確認し、感染対策の徹底などに努め、感染拡大を防ぎます。

6. 患者さんへの情報提供に関する事項

感染症の流行の兆しがある場合は、ポスターの掲示や感染対策掲示板などで広く院内に情報提供を行います。あわせて感染防止の意義および手洗いやマスクの着用など、理解とご協力をお願いします。

7. その他の事項

職員は自ら感染源とならないために、定期健康診断を年 1 回以上受診し、B 型肝炎やインフルエンザ等の予防接種に努め、健康管理に留意します。

職員は「感染防止対策マニュアル」を遵守し感染防止に努めます。マニュアルはガイドラインを参考に定期的に改訂を行い、職員に周知徹底します。

病院長

（施設基準：感染防止対策加算・抗菌薬適正使用支援加算）